

【研究費区分】：②ミニ研究環

【研究代表者所属】：システムデザイン研究科 インダストリアルアート学域

【研究代表者氏名】：菊竹 雪

【研究代表者氏名フリガナ】：キクタケ ユキ

【研究代表者職】：教授

【研究分担者（所属,氏名,職）】

- |               |                      |                  |
|---------------|----------------------|------------------|
| ・ システムデザイン研究科 | 藤原敬介                 | 教授               |
| ・ システムデザイン研究科 | Verl Adams           | 准教授              |
| ・ ミラノ工科大学     | Alessandro Biamonti, | 准教授（首都大学東京客員准教授） |

【研究環組織名】：都市環境を形成する、公共財デザインの研究・

【研究環の活動概要と、ここで形成された研究グループ・研究拠点の今後の研究活動について】（600～800字程度で記入。図（組織図含）、グラフ等の使用も可。）

本ミニ研究環では、都市環境を形成する公共財デザインより、資源循環にかかわる、ごみ行政のためのサービスシステムに関するデザイン戦略について、ヴァジュアルコミュニケーション、空間、環境のそれぞれの研究分野を軸に研究組織を形成し、国際的な視点から公共財デザインあり方を本学から発信することを目的とする。研究グループは、システムデザイン研究科インダストリアルアート学域の教員が中心となっているが、それぞれ異なるデザイン専門分野で構成され、ミラノ工科大学 Biamonti准教授とともに2020年に向けて、具体的に東京のごみ行政のためのサービスシステムに関するデザインの開発に多角的に取り組むことができた。

本年度は、上記の目的を達成するために、「What to do with my rubbish in TOKYO」をテーマとした当研究科インダストリアルアート学域（12名）とミラノ工科大学デザインスクール（37名）の学生によるデザインワークショップを2016年5月2日～6日の5日間、イタリア・ミラノ工科大学ボヴィザキャンパスで実施した。2015年11月末にミラノ工科大学の教員を招聘して行ったワークショップで決めた次の5つのアイデアをもとに（持ち帰る／ロボット／ごみを集める場所の演出／ポータブル）、2020年東京オリンピック開催時に駅や競技会場周辺に設置することを想定したごみ箱について12の具体的なデザイン提案を行った。その内容は5月に日野キャンパスSDギャラリーで展示報告した。

本研究は、都連携受託事業「公共空間の美化活動に関するデザイン戦略の開発」に大きく展開できたことから、今後は応用基礎的な研究拠点の形成を目指していく。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

- ・ 菊竹雪，ごみ行政におけるコミュニケーションデザインの可能性，第27回研究発表会，廃棄物資源循環学会，2016年9月

**【国等の提案公募型研究費，企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】**

- ・都連携受託事業「公共空間の美化活動に関するデザイン戦略の開発」，菊竹雪代表，藤原敬介分担（H27年度～H28年度 総額 14,200 千円）
- ・共同研究費，「渋谷駅周辺の再開発地区におけるメディアの開発と展開（表現）研究」一般社団法人渋谷駅前エリアマネジメント，2,500 千円
- ・スタートアップ研究，「BRT 運行開始に向けた段階的メディア広報展開の研究」，東京都都市整備局都市，基盤部，2,000 千円

**【その他社会貢献】**

**[公的審議会・委員会等の公的貢献，生涯学習支援・普及啓発，国際貢献・国際交流等]**

- ・横浜市（屋外広告物審議会委員長）
- ・横須賀市（都市景観審議会委員）
- ・千葉市（都市景観審議会委員）
- ・渋谷駅前エリアマネジメント（広告物自主審査会委員）